

令和4年度第3回 米子市廃棄物減量等推進審議会議事概要

日 時 令和5年2月17日(金) 10:00から

場 所 米子市クリーンセンター3階 301会議室

1 一般廃棄物処理におけるごみの減量化等の施策について

～事務局説明～

《A委員》

再利用ビンは缶・ビン類として収集するのか。

《事務局》

缶・ビン類としてである。

《A委員》

集めてから分別するとなると市の負担が大きくなるのではないか。

《事務局》

量が少ないのでさほどではないと考えている。実際に業務するのはリサイクルプラザなので、調整を図りながら進めたい。

《A委員》

米子市の回収は発泡スチロール・トレイは白色のものだけだが、丸合などでは色付きのものも回収しているのはなぜか。

《事務局》

各店頭、小売店で処理先が違う。色付きでも回収する所があって、福山市のエピコというところが処理することができ、ほとんどがそちらに入っているようだ。そのような事業者が市内にはなく、再資源化できない。

《会長》

災害にも原子力や大地震等いろいろあるが、そのようなときの対応はどう考えているか。

《事務局》

今回の訓練は地震の想定であった。原子力災害については住民避難が第一である。

《会長》

色々なことを想定してやっておくのが重要である。松江市などは原発もあるがそのような災害について想定されていないだろうか、もし知っていたら教えてほしい。

《事務局》

市としては地域防災計画を立てて、大雪や地震なども想定し、具体的な細かいところの話を進めているところ。市として市民を守らなくてはならず、防災安全課などと全市で向かっている。ハザードマップでお知らせしているが、今後も周知・啓発を進めていく。

《会長》

いざという時のために訓練が重要なのでよろしくお願ひしたい。

《B委員》

今後廃油の回収を考えてほしい。大山町がやっていたのではないか。回収場所がどこにあるのかは分からないが、周りの仲間も持って行っていた。

《事務局》

大山町を含め、周りも調査したい。

《会長》

米子市のごみ収集車が廃油を使っていると思うが、どこから回収しているのか。

《事務局》

平成20年代に、家庭廃油を集めて、1台やっていたが今はやっていない。耐用年数が過ぎ、買い替えていない。また周りの市町村の状況など見てみたい。

《A委員》

自分は以前学校に勤めていたが、廃油は給食室から大量に出る。水酸化ナトリウムを使って石鹼を作って保護者などに配っていた。給食センターからは大量に出ると思うが、廃油の利用が進めばいい。また、大規模災害が発生した場合、淀江等、市の東部からクリーンセンターまでごみを持ってくるのは大変だがどうなるのか。

《事務局》

給食センターから出る廃油については、以前から学校給食課が事業者に買ってもらうなど再利用している。

《事務局》

大規模災害の場合は、当然にクリーンセンターだけで受け入れることはできず、例えば日野川河川敷や弓ヶ浜公園駐車場なども置場になると思われ、今回の訓練でも想定だけは行った。現時点では市内東部の置場については具体的には想定していない。

《C委員》

以前社会実験で、廃油をディーゼルエンジンに使用したことがあった。その時の結果として、廃油はごみが多くて、昔のディーゼルエンジンには使えるが、今のエンジンには使えない、ということがあった。

《会長》

東南アジアからパーム油を輸入して石鹼を作っている。給食センターから出る廃油はすでに再利用しているとのこと、家庭から出るものもいい具合に使えばいいので、検討を進めてほしい。

2 混合粗大ごみの処理に係る実証事業 中間報告について

～事務局説明～

《D委員》

思ったよりも量が少ない。高齢者への対応や周知ができていなかったのではないかと感じる。需要に対して少ないと感じる。また料金等の検証はできているか、今後事業実施できるか。

《事務局》

広報としては、10月に自治会長の集まりで説明したほか、市ホームページ、自治会回覧などでも周知を図った。しかし確かに量が少ないので、さらなる周知について今後考えていきたい。料金については、思ったより重さに対して体積が大きく、今のところ想定よりも収集運搬の料金が掛かっている。

《会長》

385円というのは何に対してか。

《事務局》

10kg当たりである。大きさではない。

《会長》

それで(アンケート意見の)5kg未満の設定を、ということか。

《B委員》

3地区の確認はどのように行っているのか。免許証等の確認はするのか。

《事務局》

口頭での確認のみで、免許証の提示等は求めている。

《E委員》

搬入した人の意見はアンケートから分かるが、受け取る側としての問題はあるか。

《事務局》

事業を全市展開したときの搬入方法、受付方法などを考えないといけない。現在クリーンセンターの倉庫に計量器を設置して重さを量っているが、時間が掛かり工夫が必要だと感じている。全市にすると一度に大量に来るので、やり方を考えないといけない。実績を踏まえて、利便性も考慮して考えていきたい。

《A委員》

搬入料金は10kg当たり385円ということだが、例えばマッサージチェアなどはどれくらいの金額になるか。

《事務局》

重さによる。例えば40kgだと385円×4であるし、品物による。重たいものだと金額が掛かる。具体的には把握していない。

《F委員》

以前業者に依頼したことがあるが、20kgくらいで1万円くらいだった。今の料金で賄っていける見通しはついたのか。ここで重さを量って、その後どういう工程になるのか。

《事務局》

手元に正確な数字がなく、実証事業もまだ終わっていないので、また終わってから検証する。集めたものは中間処理できる業者に渡している。木、布、金属などは資源化して再利用している。どれくらい資源化されているかは今はっきりとは分からない。

《会長》

実証事業が終わったら実績報告をいただくということで理解している。また、全市展開するという展望でやっているという理解している。

《B委員》

受付数と利用者数が違うのはどういうことか。また金属だけでできているものを持ってきた場合などはどうなるのか。

《事務局》

可燃部分のみのものなどは可燃ごみ処理施設としてのクリーンセンターに案内している。受付件数はそのような方も含めた実際の受付件数となっている。

《G委員》

そのような誤解して持ってきたものとしてはどのようなものがあるか。

《事務局》

靴、ヘルメットなど。簡単に分けられるものは分別して出してもらおう、分解、分別について指導している。最初のうちは周知が悪かったのか、可燃ごみを持って来られるようなことがあったが、最近はなくなっている。

3 その他

～シュレッダーごみの処分について事務局説明～

《E委員》

以前に海老田金属から処分料金は無料と聞いた。

《事務局》

無料と聞いている。大成商事について、ポイントが付くかは分からない。

《会長》

家庭や事務所から出たシュレッダーごみはリサイクルプラザ、組合4社のどこに持っていけばいいのか。

《事務局》

鳥取県西部再生資源事業協同組合は、機密文書等、事業所向けである。資源化したいということであれば、それぞれの4社には家庭でも事業者も持ち込んでもらえると言っている。平林金属などはコーナンが拠点となっている。

《会長》

回収拠点到シュレッダーごみという区分があるか。

《事務局》

平林金属にはある。大成商事は工場のできるものもあると言っている。それぞれ業者によるので直接聞いてほしい。

《会長》

資源の再利用化については、大量に出るものものあり、進めていってほしい。市民への周知も必要だと思う。

《C委員》

今の話は混合粗大ごみの話とどう関係しているのか。

《事務局》

以前に民間の業者によるシュレッダーごみの処分について調べてほしいと依頼されていた件があったので紹介するもの。

《C委員》

事業協同組合がリサイクルプラザの中に施設を持っているのか。

《事務局》

敷地はリサイクルプラザだが、工場は別である。

《E委員》

シュレッダーごみを拠点で回収すると、市で出ているごみの量や目標値等に影響するのではないかと。民間事業者にも協力をお願いして、うまく情報収集しなければならない。

《事務局》

市内の古紙の搬入に係るデータは鳥取県からもらっているし、今後も引き続きもらうようにする。

～よなご環境チャンネルに掲載予定の動画(スコップの分別)について放映～

《会長》

混合粗大ごみの説明の部分が重要だが、文字が早くて読めない。